

4月18日に本校3年生98名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。本調査は、国語・数学に加え、今年度は英語も実施されました。それと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えいたします。

### 総合結果（国語・数学・英語）

今年度、国語、数学、英語が実施されました。3教科ともすべての領域で全国平均を下回る結果となりました。特に苦手とする領域は国語の「読むこと」、数学の「資料の活用」、英語の「書くこと」となっています。

また、無回答率については全国平均より多くなっており、あきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢を身につけていかなければならないことなどが挙げられます。

今後も引き続き、基礎・基本的な知識の定着をはかりながら、グループ学習などを通じて情報・資料をよく読み、自分の考えや意見をまとめ、発表できる能力を付けていきたいと考えます。

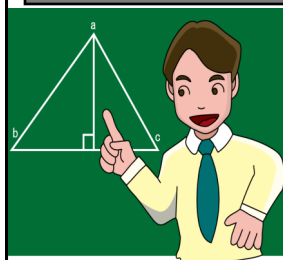


### 国語科より



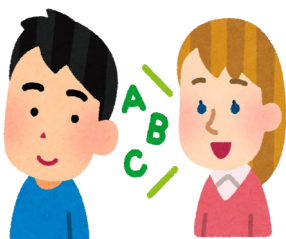
全体として全国平均正答率を5.8ポイント下回っています。特に「言語についての知識・理解・技能」に関しては、8.9ポイントの落ち込みがありました。一方で、「書く」観点においては、2.7ポイントの落ち込みに留まっており、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことや、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する力は比較的備わっていると思われます。また「自分の考えをもつ」ことや、「自分の伝えたいことを根拠を明確にして書く」ことは比較的できていることから、それをより伝えるようにするための「言語」指導を行い、不明な語句は意味を調べる習慣をつけさせると共に、新聞の社説や調べ学習等を通して、様々な言葉と接する機会を増やし活用させることで「言葉」を蓄えていけるよう継続して育成していきたいと思います。

### 数学科より



どの領域についても全国及び京都市平均よりも落ち込んでいる状況にあります。特に、資料の活用の領域は、15ポイント下回っており、記述式の問題になると無回答率が多くなり、選択式や短答式に比べて、大きく下回っています。どの単元においても基礎基本の定着が必須であり、これまでにも、そこを念頭におき指導にしてきましたが、今後の授業の中でも、常に繰り返し発問したり、反復したりする中で定着度を上げていき、身につけた数学的用語を使いながら、自分の言葉で伝えられるような授業を展開していきたいと思います。

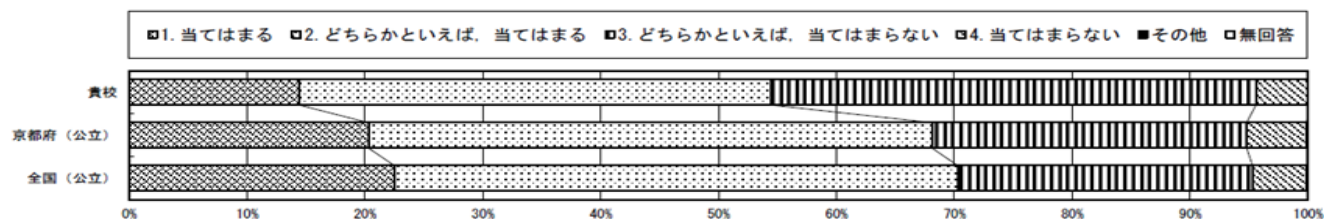
### 英語科より



全体的に京都市平均や全国平均にはなかなか到達していません。聞くことに限っては少しできるようですが、自分の言葉で表現する力が極端に低いことがよくわかります。学習した単語や文法を使って、もっと表現力を付けていく必要があります。英語が好きな生徒、大切に将来役に立つと思っている生徒は京都市平均、全国平均をやや上回る結果が出ています。成績で極端に弱いと思われる表現力のなさは、授業として取り組めていないことがよくわかりました。書くことや話すことの活動を積極的に取り入れ、英語の必要性を感じている生徒は多くいますので、活用できる英語にしていく授業改善が必要と思われます。具体的には表現する機会を増やしていくことが必要であると思います。

## 生徒質問紙調査から ①

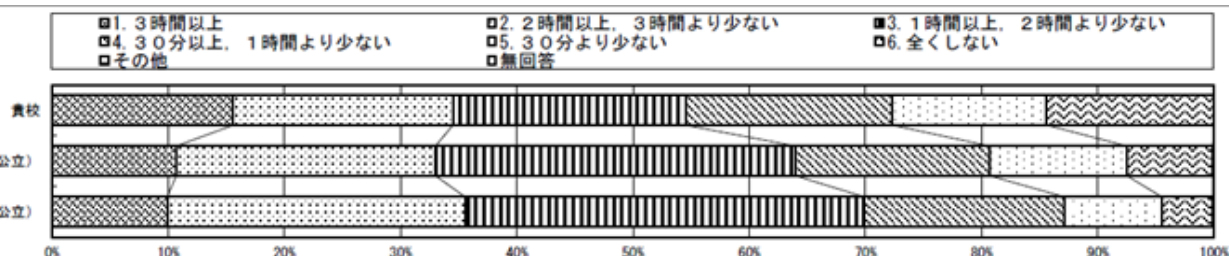
「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦をしていますか。」



★当てはまる・どちらからといえば当てはまるの割合が、全国に比べて15%低くなっています。本校生徒が自信が無いことに対して、物事に取り組む前に諦め、指示待ちをする傾向が強く、授業の中でも、「間違っていれば嫌だから、やらない。」と声を出す生徒がいます。どんなことでも、失敗は駄目であるという思いが強くなると思われます。特に学習においては、自ら取り組み、失敗や間違えることで、何が悪かったのか改善点を見いだすことができ、自分の成長を促すことに繋がります。様々な取組に対して、失敗を恐れずにやろうとする姿勢を大事にしながら行動して欲しいと思います。

## 生徒質問紙調査から ②

「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか。」



★3時間以上、家庭学習等に費やしている生徒は、全国に比べて、5%以上多くいますが、1時間以下の生徒が3年生全体の約45%で、全国に比べても約10%多くなっています。学習時間を多く取ればいいわけではないですが、既習学習の振り返りを行いながら学習に取り組むと、ある程度の時間が必要になってきます。卒業後の進路を考える中で、学習に充てる時間の優先順位を上げ、家庭学習に力を入れていってほしいと思います。

## 全体を通した本校の成果と課題

本校では、基礎的・基本的な学力の大幅な向上と豊かな感性・情感・知恵を育むことを目標として、日々の授業を大切にすることを基本に、週末課題・確認テスト、朝読書、定期テスト前学習会・夏季休暇中学習会・校下2小学校との学習状況の情報の共有や、交流などをすすめています。しかしながらその結果、3教科とも全国平均を下回っており、項目ごとに見ていっても全国平均を下回っている現状にあります。生徒質問紙調査では、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦をしていますか」についても全国平均に比べて低くなっています。ただ「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」という問いに対しては3時間以上家庭学習に費やしている生徒は全国平均を少し上回っています。他には、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問では肯定的な回答が多く、全国平均は下回るものの京都府平均は上回りました。さらに、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問についても「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」でほぼ全国平均となっています。このことから、将来の夢や目標に向けて、人の役に立てるような活動の計画を立て、物事を進められる力の育成をしていきたいと考えます。今年度も後半に入りましたが、上記で示した取組を生徒の中に意識づけられるように努めてまいりたいと思います。

## 保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、学習確認プログラムの結果も含め、これまでの調査と比べて、学力は徐々に伸びてきており、生徒質問紙調査の結果も改善の方向にあり、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

